



# 陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2016年1月 - 2月号  
Vol.33

## 支援者の皆様へ

### 活動再開から2ヶ月、、、

いつもお祈りとご支援を心より感謝いたします。活動への復帰のご報告を、昨年秋の皆様へのお手紙に書いてから、約3ヶ月、正式な活動再開からは2ヶ月が経ちます。私自身の健康のことをまずご報告しますと、最後のカウンセリングを12月に終え、病状は寛解状態に入っており、体調は安定しています。鬱の暗雲が襲ってくることはなくなり、鬱は私にとって、「頑張り過ぎないように」という警告を知らせてくれる愛すべきパートナーであって、人生を破壊し自殺を念慮させる脅威ではなくなりました。

2年間の療養中、どん底期には、「ひとりで外に出てコンビニで買い物をしてもらうこと」「かかってきた電話に出ること」「メールに返信すること」など、社会生活を送る上でもっとも基本的なことすらできなくなってしまいましたので、自分の中にあつた「自信」という感覚が、根こそぎなくなっていました。それらを一つひとつ拾い上げ、療養食を食べるように、最初は小さなことから、「あれもできた」「これも出来るようになった」という「成功体験」によって自信を取り戻している過程にあります。掃除や料理などの単純作業はもちろん、人前で話すこと、電話で会話をすること、会議に出席すること、メールなどの文章構成なども、すくなくとも主観的には以前と変わりなく出来るようになってきています。ただ、一つひとつの作業によってまだまだ大変疲れやすく、特に多くの人がいる中でランダムに会話をすることは次の日はほとんど動けないほどに消耗を持ち越すようです。焦らず欲張らずに、小さなことから徐々に活動に慣れていきたいと思っています。

自分でも回復の過程を実感し喜んでいますが、この時期に多くのことをやりすぎて無理をすると、再発の危険が隣り合わせであることも承知していますので、今のところ「一日動いたら一日休む」というぐらいのペースで活動をしています。自分で「無理をしているかどうか」というのは自分



2015年12月 義姉家族宅にて

ではわかりづらい面もありますので、当分の間は妻にスケジュールや責任を背負いすぎているかを確認しながら管理を手伝ってもらっています。

## 再開した活動

### 所属教会（練馬グレースチャペル）の事務所に出勤

病気になる以前は、固定事務所を持たない FVI で活動し、全国や国外の教会や活動地を巡回し、震災以降はその合間に被災地を訪問する仕事スタイルで活動していました。ですから出張から次の出張の間は自宅を事務所として執筆やセミナーの準備などをし、都内で月に何度か FVI の会合をする、というような日々が、2010 年から 2013 年の間、3 年ほど続いておりました。

現在も FVI は固定事務所を持っていませんので、人と会う必要のない事務的な作業をするのには自宅を使っても良いのですが、長期の休みを取っていたので、メリハリをつけて身体にも復帰の実感を得るために、練馬グレースチャペルの事務所に「出勤」させていただき、仕事をするようにしています。教会は家から自転車で 30 分ぐらいの距離になり、軽い運動にもなっています。無理はしないように気をつけつつ、一日活動したら一日休むようなペースですが、毎週のスタッフミーティングにも参加させていただき、**「自分が社会のなかで役に立っている、ささやかではあるが、小さな歯車の一部として貢献できている」という久しぶりの実感に、喜びと幸せをかみしめています。**

### 礼拝でのメッセージ

活動を再開した 12 月から、練馬グレースチャペルの礼拝で二度のメッセージを担当しました。以前はほとんど毎週のように、どこかの教会や学校や集まりに招かれ人前で話す生活をしていましたが、2 年ぶりに大勢の前で話すのはやはり、大変緊張もしました。しかし、病気の期間中ずっと、「この経験が必ず誰かの役に立つ時が来る」ということを「励み」、あるいは「最後の心の支え」にして生きてきましたから、自分の経験を通して主が下さった大きな恵みをこのような形で祈ってくださる方々に「還元」出来ることは無上の喜びでした。挫折を経験する前のペテロにイエス様は、**「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。（ルカによる福音書 22 章 32 節）」**と言われました。病気の間、私には「信仰」がまったくなくなったように感じられました。祈っても思いは虚しくこだまし、聖書は絶望へ導く書物と変わり、「信仰」は跡形もなく消え去ったかのように感じていました。それだけでなく、他者を愛する、希望をもって生きる、人びとに仕えるといった、以前自分が他の人々に教えていたまさにそのこともまた、霧散し立ち消えてしまったかに思えました。しかしそれらは、じつは一時的に私の手許を離れただけで、神のもとにちゃんと保たれていたことが今は分かります。ですから私のこれからする仕事は、「兄弟たちを力づける」ことであると自認しています。メッセージを「超」要約してアウトラインを以下に紹介いたします。

メッセージの「超」要約：「魂の夜」を越えて 主題聖書箇所：ローマ書 8 章 28 節

2015 年 12 月 13 日、練馬グレースチャペル主日礼拝にて

私の療養の 2 年間で「魂の巡礼の旅」になぞらえ、井戸に投げ込まれた預言者エレミヤが、井戸のなかでいったい何を考え、つかみとったのか、という考察をしました。ローマ書 8 章 28 節には、「すべてのこと

を益として働かせる」とありますが、この「益」は健康や強さ、成功や若さといった特定の状態を指すのではない、という視座の獲得が魂の巡礼の中で、「病気という啓示」によって私の内面に起こった変化でした。病気や弱さ、挫折や老いといった、「近代」という価値観の中で辺縁に追いやられ、「克服すべきもの」と捉えてきたものも含め、「すべてのもの」を、神は「益」という統合のなかに組み込み、「人生という作品」を完成させてくださるのです。

メッセージの「超」要約：「私」という名の物語 主題聖書箇所：第二コリント人への手紙 3章 3節  
2016年1月17日 練馬グレースチャペル主日礼拝にて

哲学者キルケゴールは「社会で歌われている歌を聞かせて下さい。その社会の未来を言い当てましょう。誰が法律を作ろうと、私は一向に構いません。」と言いました。東西冷戦終結後の現代社会は、「大きな物語が終焉した」社会であると言われています。人の人生を基礎づけ、「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか（ゴーギャン）」を教えてくれる「物語」がやせ細っているのが現代社会のひとつの病理です。

福音は断片的な情報ではなく、「物語」です。私たちが「福音を伝える」というとき、一定の情報を伝達するという「宣言」も大切ですが、同時に聖書全体と歴史が織りなす有機的な「神の物語」を「物語る」ことが現代においてはますます大切です。その物語は、歴史、教会との調和のなかで、「あなたの人生」という作品が神によって描かれていくことによって紡がれます。「社会の教会を見せてください。その社会の未来を言い当てましょう。」と言われる日が来るよう私は祈っています。

## ブログでの発信

病気になる以前から、支援者の皆様に活動を報告する目的で更新していたブログ「陣内俊 Prayer Letter ONLINE」（Google 検索で「陣内俊」と入力ください）を再開しました。体調の異変を感じはじめる 2013 年まではほぼ毎日更新を続けており、一定の読者を獲得し、多い時は毎月 10,000PV ほどの訪問者がありました。療養中の 2 年間は当然、まったく更新できませんでしたが、昨年 11 月から無理のない範囲でブログを更新し始めました。現在のブログ訪問者は最も多かったときの 5 分の 1 ほどですが、新たな読者が広がり、FVI の活動の前進や、大切なメッセージの普及発信に用いていただければと願っています。

## 今年、予定されていること

### 神戸での日本伝道会議（JCE 6）における分科会を担当

9月に開催される、第六回 日本伝道会議（URL：<http://jcenet.org/>）において、FVI は二つの分科会を担当いたします。「世界観の Re-Vision によって神の国を生きる宣教」と、「社会の隅に置かれている人を愛するとは？」（サーバンツ\*との共同開催）というテーマで目下準備中です。キリスト教会の教職を担う 2,000 名以上が集う本会議のなかで、FVI に託された「世界観」「隣人愛」の分野において与えられた役割を果たせるようお祈りくださいましたら幸いです。

\*サーバンツ：全世界のスラムなどで共に生活をする中でキリストの福音を「受肉する」ことを目指す宣教団体。  
<http://www.hisvisions.com/chami/wp-content/uploads/2010/07/ServantsBrochure.pdf>

## 祈りの課題

- ◇復帰後、徐々にペースを上げて仕事を入れていますが、無理を重ねて再発することのないよう、慎重に仕事を調整していくことが出来るように。自分の身体や性格に合った、負荷の少ない働き方も覚えられるように。
- ◇夫婦のため。純子と私（俊）が、神様を第一とする家族の土台をますます強めていけるように。
- ◇病気の経験を通していただいた恵みについて証させていただく機会が増えています。同じ病気を経験している人びとにも、慰めと神の愛を届ける器としてこれからも用いられるように。

## 今後の予定

月 日	内 容	場所、補足
2月24日、25日	社団法人「ふるさとと心を守る友の会」を訪問	福島県双葉郡
2月29日	FVI 役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
3月前半	愛知県訪問	ICBC などの教会で奉仕予定
3月後半	北海道訪問	医療法人稲生会（手稲区）で講演など
5月22日	礼拝で奉仕	立川福音自由教会（立川市）
9月27-30日	JCE 6分科会	神戸コンベンションセンター（神戸市）
随時継続して	FVI の各種活動	国内各地

## 連 絡 先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」  
久米川 090-5607-7389  
陣内への Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

## 支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座  
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」  
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

- \* 振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- \* 2カ月に一度、プレーヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。
- \* Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。